

米国の技術的な優位は続くのか？

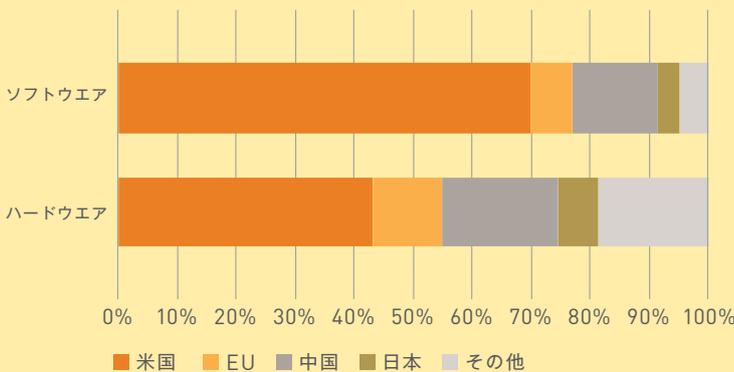
こ

の30年間、米国発のイノベーションが世界の社会の在り方を大きく変える状況が続いている。インターネットに始まり、Googleの検索サービスやスマートフォンという新しい情報端末の嚆矢となったiPhone、アラブの春などの政変を促す原動力になったFacebookなどのSNS、AWSやAzureなどのクラウドサービス、そしていま市場を席捲している生成AIまで、すべて米国企業が生んだものだ。情報技術以外にもシェール革命やCRISPR/Cas9（ドイツの研究者との共同研究）などのイノベーションが生まれている。背景にあるのが、研究開発に対する巨額の投資や大学・軍・企業の連携による軍事技術の民間転用サイクル、ベンチャーキャピタルの厚みといったリスク許容度の高い資本主義システムだ。中国

やインドも追いつけているが、この先10年程度は米国発の技術が世界をリードするとの見方が多い。

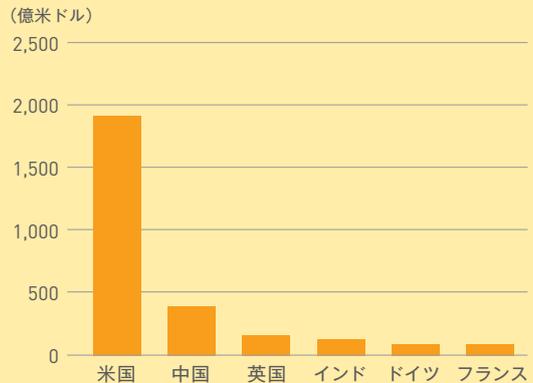
春の市場の混乱から米国株は騰勢を強めており、S&P 500は再び史上最高値を更新している。ただし、その上昇は一律ではなく、選別的傾向が強まっているようにも見える。株式投資の醍醐味は、やはり企業のダイナミックな成長を実感できることだろう。一方で、初期にはニッチに見えるサービスが後に大きな破壊を生むこともある。例えば、SNSやブログの大半は当初は日記に過ぎなかったが、後にメディアを再編するような力を持つこととなった。また株式市場に「鳴り物入り」で登場した新技術であってもビジネス的成功を得られるとは限らない。新たなイノベーションへの投資を考えるのであれば、プロの選別眼を活用するのも1つの方法ではないだろうか。 **M**

図表1 情報技術分野の研究開発費の国別シェア (2023年)



(出所) 欧州委員会の資料(2024年12月)、Statistaより引用

図表2 ベンチャーキャピタルの国別の規模 (2024年)



(出所) Dealroom.co、Statistaより引用

モルガン・スタンレー 米国株式インサイト戦略ファンド

(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし) 追加型投信 / 内外 / 株式

“革新的なアイデアが生まれる地、米国”

当ファンドは、独自の調査手法を用い、米国を中心に大きく成長が期待されるユニークな銘柄を発掘し、投資します。

※当ファンドは米国株式を中心に投資しますが、米国以外の国・地域の株式等も投資対象となります。

2025年7月28日(月)～申し込み開始

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。

